

岐阜県の給食をオーガニックにするための上映ツアー

給食ネットワーク岐阜代表 服部晃

「食の安全を守る人々」をメインにした上映会

同時上映として「浸透性農薬ネオニコチノイドはヒトにとって安全か？」

「静かな汚染ネオニコチノイド」などを活用

フューチャダイアログの星信彦氏や平久美子氏の報告も積極的に紹介

県内11か所、三重県2か所、計
13会場で開催。参加者約千名
(スタッフを含む)

案内チラシ9万枚以上を、後
援の取れた市町村の小中学校
を中心に配布した。

目的の達成度

- 食の安全を脅かす問題を多くの人に知らせるのが目的なので、目標をほぼ達成することができた。
- チラシの配布については、企画当初は新聞折り込みも考えたが、ターゲットの子育て世代には届きにくいと思い、とりやめた。教育委員会の後援が取れば、小中学校の全生徒に配布できる事に気がつき、想定以上の成果を上げることができた。

実施により得られた 予想以上の成果

- ①開催地だけでなく、周辺の市町村からも後援を取れることが解った。これにより、より多くの子育て世代に問題提起することができた。
- ②開催地の実行委員会が中心になり、発展的に新たな「食と農」に取り組む地域グループがいくつも産まれた。
- ③2023年度では、この点についても積極的に取り組んでいきたい。

給食オーガニック化にむけた県内の動き

- ・白川町では、毎月一回の有機米のほか、野菜も供給のできる限り有機野菜を導入するようになった。オーガニックヴィレッジ宣言もした。
- ・美濃加茂市、瑞浪市は市長が上映会に参加して、積極的に取り組むことを、表明している。
- ・他の市町村でも議会の一般質問の答弁などで、前向きな答弁が増えてきている。